

マークが対人のコミュニケーションに与える効果を検証

ポーラ ポーラは、顔立ちや肌の色を活かし、本人のなりたいイメージに近い「魅力発揮マーク」が、初対面の相手に自身の興味・関心を喚起し、ポジティブな感情を生みだすという効果があることを、マーク効果測定により確認した。

これまで、マークの効果は様々なアプローチで検証され、外見だけではなく、内面にも働きかけ、幸福感の向上や免疫力で高まるという検証結果がある一方で、マークを含めた化粧や美容については、「身だしなみを整えること」と捉えている女性も多いため、日々の調査結果もあり、日々のルーチンとしてマークをしている女性が多いことがわかっていった。

今回、新たな試みとして、普段自身で行っているパターン化された「自己流マーク」とその人の顔立ちや肌の色を活かしながら自身のなりたいイメージに近い「魅力発揮マーク」では、初対面の相手にそれぞれどのような感情の変化を起すのか、マークの差を伏

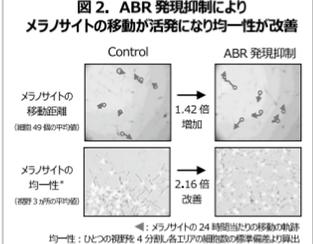
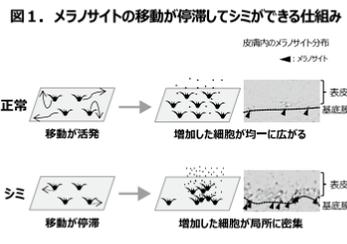
■マーク別・感情の発生傾向 (VAS法)

マーク	人しやべりたい	安心した	無関心な	嬉しいこと	だるい	うれい	悲観した	リラックスした	いらいらした	前向きな	自信がない	楽しい	驚いた	はつらとした
魅力発揮マーク	44.4	62.4	15.6	51.1	3.8	51.1	6.8	55.5	5.0	61.7	19.9	59.3	22.0	50.6
自己流マーク	39.1	47.0	23.4	41.5	11.8	43.4	11.3	54.1	8.4	57.4	25.6	36.6	27.2	37.1

魅力発揮マーク群と自己流マーク群との間で、評価者の感情の発生に差が認められることがわかった。

ポーラ化成 メラノサイトの停滞がシミの原因となることを発見

ポーラ化成工業は、メラニン産生細胞(メラノサイト)の移動に着目した新たなシミ改善技術を見出した。従来のシミ・色ムラの原因は、メラニン産生細胞の移動が停滞することによって、メラニンが皮膚の奥深くに蓄積し、シミ・色ムラの原因になることを発見。さらに、メラノサイトが密集



具体的には、メラノサイトの移動を制御している「ABR」という遺伝子の発現を抑制することでメラノサイトの移動を活発化させ、メラノサイトの密集を解消することで、シミ・色ムラ形成の原因へアプローチできるという。

そこで同社は、「ABR」の発現を抑制する素材を探した結果、ブルターニユ産海藻とローズマリー、ベイバリーバークとローズマリーの複合エキスを発見した。同成果は2017年「欧州研究皮膚科学会年會」にて報告済みで、ポーラから発売される商品に活用される。

再生医療のメカニズムを初めて化粧品に応用

資生堂 美容医療領域では、目まぐるしく変化する再生医療「W-PRP施術」に着目し、そのメカニズムを化粧品に応用する目的で医師との共同研究を進める中、このほど、コレストロール合成酵素「DHCR7」が正常な肌の生まれ変わり(表皮の分化)に重要な役割を果たしていることを明らかにし、この酵素を増加させる薬剤を新たに見出した。

これにより、美容医療と同じメカニズムに基づくスキンケアを自分で行うことが可能になるという。

資生堂 髪の断面形状を補正する アプローチ方法を開発

資生堂は、ダメージの技術開発に成功した。ダメージの断面形状に認められる歪みや扁平化が日常の洗髪でより深刻化するのを発見し、ダメージを補正・修復する2つのアプローチを開発した。

一つ目のアプローチは、ダメージの断面形状が乱れることを補正し、修復する2つのアプローチを開発した。

二つ目のアプローチは、ダメージの断面形状が乱れることを補正し、修復する2つのアプローチを開発した。



縮毛矯正効果がある「グリコシル酸」(GA)を「グルコノラクトン」(GDL)と特定濃度で組み合わせ熱処理を加えるというアプローチにより、pH3.0〜3.8の弱酸性下で同様の効果が発揮できることがわかった。この効果は同時に断面形状変化にも影響することがわかり、ダメージの感触改善にも大きく寄与するという。

研究では、GAは施術により毛髪形状補正効果が約1カ月及ぶこと、LTCは繰り返し処理で簡便に利用が可能であることが判明しており、今後、GAは技術者用サロニクス商品へ、LTCは一般ホームユース商品へと応用していく。

ヒト培養表皮角化細胞を用いてコレストロール合成酵素「DHCR7遺伝子」の発現を増加させる薬剤を探した結果、「酢酸レチノール」がDHCR7遺伝子の発現を増加させることを発見した。今後は、酢酸レチノールを新たなスキンケア化粧品の開発に応用していく。

ヒト培養表皮角化細胞を用いてコレストロール合成酵素「DHCR7遺伝子」の発現を増加させる薬剤を探した結果、「酢酸レチノール」がDHCR7遺伝子の発現を増加させることを発見した。今後は、酢酸レチノールを新たなスキンケア化粧品の開発に応用していく。

ヒト培養表皮角化細胞を用いてコレストロール合成酵素「DHCR7遺伝子」の発現を増加させる薬剤を探した結果、「酢酸レチノール」がDHCR7遺伝子の発現を増加させることを発見した。今後は、酢酸レチノールを新たなスキンケア化粧品の開発に応用していく。

ヒト培養表皮角化細胞を用いてコレストロール合成酵素「DHCR7遺伝子」の発現を増加させる薬剤を探した結果、「酢酸レチノール」がDHCR7遺伝子の発現を増加させることを発見した。今後は、酢酸レチノールを新たなスキンケア化粧品の開発に応用していく。

ヒト培養表皮角化細胞を用いてコレストロール合成酵素「DHCR7遺伝子」の発現を増加させる薬剤を探した結果、「酢酸レチノール」がDHCR7遺伝子の発現を増加させることを発見した。今後は、酢酸レチノールを新たなスキンケア化粧品の開発に応用していく。